

平成29年度草津市スポーツ推進審議会 議事要旨

■日時：

平成30年3月22日（木）18時00分～20時00分

■場所：

市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、片山委員、太田委員、小傳良委員、北川委員、
小川委員、嘉悦委員、堀井委員、檜垣委員、

■欠席委員：

山本委員

■事務局：

川那邊教育長、明石教育部長、田中副部長、
岸本課長、力石G長、山田G長、宅間専門員、寺尾主査、西村主事

■傍聴者：

0名

1 開会

【教育長】

本日は、年度末の大変お忙しいところ、また、出にくい時間帯に御出席を賜り、ありがとうございます。草津市スポーツ推進審議会の開会あたりまして一言ごあいさつを申しあげます。皆様には、平素より草津市教育行政の推進・充実はもとより、特にスポーツの推進に格別の御振興を賜っておりますことに御礼を申しあげます。

先日、平昌オリンピック・パラリンピックも日本人の大活躍のもと閉幕いたしました。いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの開催が2年後となってまいりました。また、滋賀県では2024年に国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催を控えており、本市としても今年度よりプール会場の整備に向けた取組を始めたところであります。

さて、今年度におきましても、平成32年度までの計画期間とする草津市スポーツ推進計画に基づき、様々な取組を行ってきたところでございますが、基本方針の1の「子どもの体力向上とスポーツ活動の推進」につきまして、少しお話をさせていただきます。御承知のとおり、これまでから体力テストというものがございますが、小学校5年と中学校2年を対象に実施しており、その結果が過日発表されました。本市の中学校におきましては、こぞずっと全国平均をかなり上回る数値でこのままで行こうと安心をしているところでございますが、数年前小学校の方でなかなか結果が出なくて課題の一つとして、草津の子どもは体力が

なかなかないのですということをおっしゃったのですが、そういったことも言っていただけないため、幸いにも立命館大学スポーツ健康科学部との連携も実り、小学校の体育主任会を中心とする、小体連との共同研究というのも実現いたしました。その取組が非常に充実してまいりました。プログラムの開発でありますとか、データを基にした研究実践でありますとか、そういったもので成果が出てまいりまして、幸い去年も今年も何とか県平均を上回るぐらいになってまいりました。まだまだ県平均ではということで、全国を上回るぐらいにこれからも力をいれていければと思っております。

それから、新聞にはこのような記事がございました。岡本先生の記事でございまして、今まで野球では1塁にヘッドスライディングでいくのか、駆け抜けるのか、どちらが早いのかということで、野球界で定説となっておりますのは、ヘッドスライディングより駆け抜けた方が速いことでした。でも、高校野球を見ていると、ヘッドスライディングのチャレンジ姿に心を打たれるということですが、実は、岡本先生の研究でヘッドスライディングの方が速かったという記事です。これを科学的に、すごくいい機器を使って、測っていただいて、定説を覆すということが記事に出ておりました。テレビでもこれで一つの結論が出たということで報じられておりました。こういった先進的な科学的な取組もしていただいているようで、またこんなことも色々ご紹介しながら草津市のスポーツ全体へのお力添えをいただければと思っておりますし、その他草津市内には色々な競技の団体、スポーツ振興の団体がございます。そういうところもしっかり力を合わせながら、草津市のますますのスポーツ振興、推進にお力をお貸しいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

2 議事

▶冒頭に、岡本会長より

教育長より体力向上のお話がありましたが、県のデータと国のデータを比較しながら、草津市のデータを見ていたのですが、1番気になるのは、特に小学生の投げ動作の記録が低いと思います。この辺りをどのように解決していくかが我々の課題であると思います。遊びの中で投げをする機会が減ってきているため、そこを進めていかないと、投げ動作の記録は伸びていかないと思います。今、授業の中で体力づくりに取り組んでいただいておりますが、投げというのはそればかりでは伸びないと思います。遊びの中で工夫しながら様々なものを投げる取り組みを考えていかなければならないと思います。

県と市町のスポーツ推進計画のつながりががないため、県と市町のつながりを持つために、県から市町へ課題を下ろしていただくようにお伝えをしています。しかし、草津市としても、このスポーツ推進計画を進めて行かなければならないと思いますので、積極的な御意見を申し上げます。

(1) 平成29年度草津市スポーツ推進計画の点検・評価結果について

【事務局】

資料1、2-1、2-2に基づき、推進計画の点検・評価結果について説明

▶基本方針1 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

【委員】

スポーツ指導者講習会のところで、あまり参加者がいなかったとのことでしたが、講習会の周知・啓発についてどのように呼びかけていたのかについてお聞きしたいです。

【事務局】

どのように周知・啓発したということですが、ここに書いてある対象である競技団体やスポーツ少年団の指導者に対し、文章を出し、またポスターチラシ等を作成し、社会体育施設等に配荷して啓発されたところです。また、草津市スポーツ振興事業体のホームページ等でも情報の方を掲載されていました。

【会長】

ジュニアスポーツフェスティバルのところで、雨天の場合のことを考えて準備しなければならないとの意見がありましたが、具体的にどういったことをイメージしているのですか。

【事務局】

雨天プログラムということで、今現在の中では、6年生が各クラスで取り組んでいる長縄8の字跳びだけを雨天プログラムでやる予定をしていますが、大学の団体は晴れている場合は、クインススタジアムの方で各種競技団体がアメリカンフットボールやラクロスなど、それぞれの大学生の団体に来ていただき、そこで体験をするという場があります。雨天プログラムになると当然そこではできないということで、相談みたいな形をお願いをさせていただき、各団体の方から各学校の方に派遣をし、全種目ができなくとも、例えば1種目だけでも各学校で体験できる場を持ってないかということで、今現在考えています。

【会長】

では、各学校の体育館に集合して、そこに大学生が行って、一斉に何か一緒のことをやるということですか。

【事務局】

各学校の場合でもいくつかの学校が出来る場合もあり、各学校の事情によっては、1校だけの実施ということもあるので、それを集約しながら派遣先等を決めて行ければと思っています。

【委員】

平成26年度に中学校は良かったが、小学校は低迷している状況が、立命館大学と

の連携の中で、滋賀県よりは上で、全国に近づきつつあるということに感謝しているところからです。その動きの一つは、「短時間運動プログラム」を体育の授業の最初の時間、5分から10分ぐらいで、14校が一斉に行うという取り組みをしたということが大きく、間違いなく上がっていくと思います。ただ、先ほど会長が言われたように、遊びの中でどう体力を向上させていくかということが大きな課題で、長休みもドッジボールなどをやっている子は、ソフトボール投げを当たり前のように投げているかもしれませんが、長休みに図書室に行く子も褒めてあげないといけないこともあって、昼休みに毎日同じ動きをしているかということ、どこの学校でも週1回は全員遊びをしようという動きを作っているところです。例えば、金曜日はドッジボールをする、あるいは鬼ごっこをする、そういうことを褒めていきながら、体育の授業の5分も大事ですが、長休みや昼休みの遊びを通して体力向上に繋げていくことを各学校で話をしていかなければならないと思います。ただ、立命館大学の御指導の下で、14校の小学校が同じような取り組みをしていることはありがたいと思っています。

【委員】

運動部活動支援員につきまして、この事業について中学校現場においては非常にありがたいです。ただ部活については、指導がきちり出来る先生とできない先生がはっきりしている中で、出来ない部分について、市の制度の中から、支援員を入れていただけることは非常にありがたいと思います。ただ、今度、国・県の方から部活動指導員という形の制度になり、この市の支援員と新たに指導員と入ってくる中で、今後の見通しとしては、どのようになってくるか、また、支援員制度の評価を今後どのようにみていくのかなというところで見通しとかどう立てているのかお伺いしたいです。

【事務局】

昨年、支援員制度ということで創立させていただき、今年度の実績は、全ての学校において、予算化させていただいた部分について全て活用いただきました。学校現場からも非常に助かっているということで御意見をいただいています。今後については、来年度、指導員制度については、約2人分ということで、試験的に導入させていただき、学校現場で実際活用いただく中で、支援員制度と指導員制度とどちらの方が活用しやすいか、現場の方になじむのかということ、平成30年度に活用いただいたうえで、色々と御意見をいただきながら次年度、どのようにしていくかということについて考えていきたいと思っています。

【委員】

取り入れていかなければならないという中で、来年度取組の中から検討されるということで、また現場の意見も聞いてみたいと思います。

【副会長】

そういう指導員がいるのでしょうか。

【事務局】

学校現場で話をさせていただく中では、試験的にさせていただく方はあるだろうということを進めています。

【会長】

片山先生のお話のところで、遊びというところで、出来たらキーワードとして「走る・投げる・跳ぶ」というこの基本動作で遊びを通すという、この言葉をセットで補足していただけるとありがたいです。走るばかりでは遊びではなく、特に（体力テストの）点数を見ていると、投げるところをもっと上げれば、かなり全国平均を超えるのではないかなというふうに思っています。

▶基本方針2 生涯スポーツ活動の推進

【委員】

ウォーキングの推進のところで、歩こう会は継続して前からされていると思いますが、大体どのくらいの年代の方が参加されているのですか。

【事務局】

主には、中高年の方々です。若い方もたまには来ていただいております、輪が広がっていく部分と、地域でもウォーキングを推進されていますが、地域の普段歩かれています中で、月1回の歩こう会で色々な市内、県内、県外と色々な形で企画されているので、そちらの長いコースについても、月1回のイベントの一つということで行っていただいています。

【委員】

歩こう会は、中高年ということだが、ヘルスツーリズムについては、若い方が多いのですか。

【事務局】

今年度は、概ね30代から40代の女性をメインターゲットとしたイベントを実施されているところですが、今後は様々な事業展開を行っていくということで聞いています。

【委員】

様々な年代の方がウォーキングできるような体制ができるといいと思うのですが。

【会長】

補足説明といたしまして、ヘルスツーリズムとは、遠方から草津にやっけてきて健康を感じよう、体験しようというイベントのことを指します。草津の人たちばかりではなく、近辺で宿泊してスポーツプログラムに参加してみようというものです。

【委員】

若い方がスポーツに関わっていないということです、若い方が参加しやすいような事業があるといいと思います。

【会長】

スポーツ庁は、ヘルスツーリズムというキーワードをどんどん出してきています。東京オリンピックに向けて、ただの観光ではなくて、スポーツと引っかけた観光をもっと展開しりということがあります。こうしたところで、市町も取り組みを行っていく流れがあると思います。

【委員】

課題としては、比較的若い世代のスポーツ実施率が低いということが挙げられると思いますが、働いている人で運動する時間がないという方が多くいると思います。短い時間でも体力向上や生活習慣病の予防のために効果的な運動を教えてあげ、それを実施する機会を与えるということが必要であると考えます。そのための運動する場所というものを作る必要があり、それを指導するという指導者も必要だと思うため、その点をさらに民間企業と連携しながら行っていければいいと思います。

【事務局】

ランニング普及の点で2という評価でしたが、そのあたりの連携等を強めていきながら、ランニングの普及などに努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【委員】

何かそれに対する今のところの具体的な方法を考えているのか。

【事務局】

現在、場所づくりが必要だということで、草津川跡地公園の整備ができており、その場所を走ってもらうために、走ったあとにシャワーをしてもらい、走れる環境を作ろうということで作っております。走られている方も、次に大会などに出て行かれる機会を作っていけたらと思います。本市では、ランニングでは駅伝を行っていますが、ウォーキングですと、くさつ健幸ウォークということで企画もさせていただいており、そのような普段から体を動かしていただき、年に何回かそのようなイベントに出場していただけるような機会づくりを考えています。

【委員】

高齢の方は走っているイメージがあるが、それが20代や30代に広がっていければと思います。

【会長】

檜垣委員に質問ですが、マラソンなどに出ておられますが、マラソン大会では30代、40代の女性がいいウェアを着て走っています。そのような方はなぜ参加するのでしょうか。何が楽しくて走るのでしょうか。

【委員】

健康増進ということは考えておらず、ストレス発散や社交の場として考えているのではないかと思います。やはり見て思うのは、走っているときもそうですが、終わっ

たあとの打ち上げなどサロンのなところや人とのつながりを求めているという側面があると思います。

【会長】

走る楽しみをこれまで走ったことない人に伝えるためにはどうすればいいでしょうか。その手法は何かあるのでしょうか。

【委員】

メディアやブームの影響が大きいと思います。テレビや新聞の報道や、人に誘われることで始めてみたという方が結構います。

【副会長】

スポーツをしている人がスポーツをしていない人を引き込むのは非常に難しいと思います。そのあたりを上手くできるといいのですが。いかにしてスポーツを好きになってもらうかというのは、小学校のころから取組必要があります。

【会長】

5 kmマラソンや10 kmマラソンなど、あまり長い距離ではなくて家族で参加できる短めのマラソンイベントがあるといいと思います。

【委員】

ファミリーランなどを家族で始められる方もいます。

【副会長】

体育協会の中で駅伝競走大会を開催しているが、3.6 kmミニマラソンの参加者が比較的多いです。親子で走っている人もいますが、そのような人はジョギングが好きな人であると思います。また、スポーツ少年団の参加も非常に多いです。

【会長】

身近なところでのイベントを開催していくというところで整理していただきたいです。

【委員】

地域で体育振興会といく形で活動していますが、私のような高齢者は時間があるため、参加してもらえます。若い人は非常に参加が少ないです。見て感じることで、仕事で時間がないということ、勤務先のスポーツサークルを優先されます。地域の方にはなかなか入ってこないため、上手く計画していかなければならないと感じています。

▶基本方針3 地域コミュニティによるスポーツの推進

【会長】

くさつMIO夢先生事業のところで、地域イベントというキーワードが使われたが、町内会単位のことを言っているのでしょうか。

【事務局】

想定としては、町内会や学区単位を視野に入れています。

【委員】

スポーツクラブについて、自分自身の学区ではできていません。

【委員】

なかなかできないという要因があるのでしょうか。

【委員】

自分一人ができるものではないが、そのあたりの熱意が欠けているのだと思います。では、どうするかとなると他の学区を見てやっていくしかないと思います。

【委員】

マネジメントしていく人材が必要であるということだと思います。

【委員】

スポーツ推進委員も兼ねていますが、そこである程度総合型地域スポーツクラブについての知識を得てきていますが、そのスポーツ推進委員で各学区に戻ったときに、その各学区でのスポーツ推進委員の総合型地域スポーツクラブに対する温度差があって、熱心な方がいるところでは、すぐに設立ができますが、興味を示さないスポーツ推進委員がいると、クラブが育ちにくいということになっています。スポーツ推進委員と体育振興会を兼ねている学区も多いですが、その方々が中心となって動いてほしいと思いますし、そのための教育をスポーツ推進委員の研修会で今まで受けてきているはずなので、そのあたりを上手く活かしていただければと思います。行政が前に行くのではなくて、スポーツ推進委員協議会の中で総合型地域スポーツクラブに対する教育みたいなものがあればいいと思います。

【委員】

スポーツ推進委員の中でもそれぞれ違って、サラリーマン、自営業、定年退職された方、それぞれに自分の使える時間が違うので、あまり同じようには行動できません。平日に出前講座があるとなると、サラリーマンは難しく、出る人が限られてきます。皆さんが活動できればいいが、仕事をしながらのスポーツ推進委員なので、そのあたりが難しいです。

【委員】

様々なイベント事業があつてスポーツ推進委員が関わっていますが、土日の事業はかなりの参加率がありますが、平日の事業になるとある数人に人が絞られてくるというところがあります。

【副会長】

リーダーになる人は高齢者が多いです。若い人をどのように育てていくかが重要です。地域でも同じで、スポーツに関して知識がない人が参加されます。それを一から指導していくとなると大変です。

【会長】

設立されたスポーツクラブについて、どのような経緯でできあがってきたのですか。

【事務局】

今回設立された要因として、キーマンになる人がいたということ、既存のまちづくり協議会との連携も模索し、安定運営を図ろうとしたことが要因となっています。

【会長】

やはり、まちづくり協議会と連携行く必要があると思う。何学区でクラブが設立されたのですか。

【事務局】

老上西小学校を拠点とした老上・老上西学区合同のスポーツクラブです。

【会長】

人材育成やマネジメントというところで、どのように人材を作っていくのでしょうか。どうしても若い方々は平日に仕事があるので、先輩方に頼らざるを得ないけれども、若い方々の中でマネジメントできる人材育成をしなければならないという課題です。

▶基本方針4 競技スポーツの推進

【会長】

駅伝のところで、参加者が減ってきているというところで、評価が2になっていますが、他のエリアで駅伝がかなり進められてきているけれども、そういったところの実態調査があるのでしょうか。

【事務局】

本大会においては、実行委員会形式で行っており、前年度の反省等を踏まえて、毎年各関係者と協議し、どのようにしていくか相談しているところです。会長の言う、他市との連携というところまではできていなかったという反省点があります。

【会長】

体育協会は駅伝について、どのように考えていますか。

【副会長】

2年前に3.6kmミニマラソンの部を導入しています。それによって数が増えてきています。先ほど言っていたように、走る人が少ないというのがありますが、地域対抗の部では、毎年2～3チームと決まったチームしか出場していません。地域として駅伝に力を入れていただいて、出場していただきたいです。

【事務局】

平成28年度は125チーム、平成29年度は120チームということで、内訳といたしましては、大人の参加者が減っていますが、子どもの参加チームが増えていきます。今年は、京都マラソンと重なるなど行事の日の設定などについても県内は避けているものかと思いたいと思います。また、大人の参加チームを増やす工夫を行うなどを

考えています。副会長からあった3.6kmミニマラソンについて、新たな取り組みとして、今年は昨年よりさらに人数も増えており、3.6kmミニマラソンを増やしながら、参加者の増加に努めていきたいです。

【委員】

他の取り組みの実態調査というものが必要となってくるのではないかと思います。特に宇治あたりをみると、スイーツという言葉をつけてスイーツマラソンということで若い人を集める取組をされています。他の市町の特色をまねて見ていることも今後の課題であると思います。

【委員】

スイーツというキーワードが出てきましたが、ヘルスツーリズムと繋げるとするならば、フォトローギングと言い、有名な観光地やお寺などオリエンティンクみたいな形でランニングと絡めていくということです。家族連れで行き、有名な観光地に行って写真を撮ってポイントになるというスポーツですが、スポーツに加えてスイーツと絡めていければいいと考えています。

今回、県民体育大会の人数が出せなかったという課題がありましたが、現状どういふスポーツ競技が出ていないのか、こういう対策が必要なのではないか、その整理とか、分析とかもう少し細かいところまで出ているのでしょうか。どの競技で出せていないのでしょうか。

【事務局】

平成28年度に参加されていない競技が10競技で、平成29年度に14競技ということで、概ねアイスホッケーやウエイトリフティング、ハンドボール、レスリング、自転車、馬術、フェンシング、なぎなた、銃剣道といったところです。比較的競技人口の少ない競技が参加できていないという特徴があると考えられます。

【委員】

ウエイトリフティングや自転車であれば、個人でもできるスポーツではないのでしょうか。しかし、全体的に人数も少なく、出場するまでの水準に至っていないということなのではないでしょうか。

【事務局】

県民体育大会の競技については、参加点というものがあり、今年度は26競技しか参加できませんでした。一部は事情があり、昨年より減っている部分もありますが、基本的に体育協会の方は、こういった場ができ連携ができつつあります。立命館大学等とのつながりもできている中で、出場競技を増やしていこうと思っています。ネットワークを増やすことにより、出場されていない競技の方とのつながりを作っていくようなことで、今後出場競技を増やし、また、それぞれの競技自体の競技力向上を行っていき、目標を達成していこうというようなことを考えています。点数的には、参加した競技種目が少なかったものの、成績ということを見ると、今年度、総合1位

が2つ、総合2位が7つということで上がってきており、他の市町とは点数が空いていないため、以前は2位の時もありましたので、それを不動のものにしていきたいです。

【委員】

競技力は高いかもしれませんが、出し惜しみをせず、参加していけばいいということでしょうか。

【事務局】

競技を行っている人はいるので、その発掘をどうするかというのが課題だということで、様々な場面を通じながら、ネットワークを増やしている現状です。

【副会長】

ウエイトリフティングというのは非常に難しく、1人1人に指導者がついていないとできない競技であり、選手の発掘も難しいと思います。

【会長】

県民体育大会に出場できていない競技種目のところについては、滋賀県全体としても厳しい競技種目であり、人口もなかなかいない種目です。エリアで育てていかなければならないため、例えば高島のところではウエイトリフティング、他のエリアではウエイトリフティングができないというようなところがあります。もう一つの課題としては、立命館大学生が住民票を移しておらず、住民票を移すことによって出場できると思います。

補足説明をさせていただくと、オリエンテーリングについては、草津市としても研究課題の種目であると思います。かつて、希望が丘のような大きなところでオリエンテーリングが行われていましたが、まちなかオリエンテーリングというのも出てきており、関西では、大会会場を京都大学のキャンパスを利用し、キャンパス内にポイントを置き、キャンパスをぐるぐる回り走りながらポイントを集めていく、まちなかオリエンテーリングが種目として出てきています。駅伝の新たな種目として、キャンパスの中を走り回り、このような取組のあってもよいのではと思います。

▶基本方針5 スポーツ環境の充実

※ここでは、(仮称)草津市立プール整備および野村公園体育館整備についても説明

【会長】

ホームページのアクセス数が一気に目標値を超えてしまったというところですが、工夫していけば、もっと増えていくところであると思います。小学校や中学校の記録や写真をホームページに掲載していくと保護者が見ていくため、ホームページを活用して、活躍について情報提供してあげる必要があります。中身の部分について、皆さんの意見があるといいと思います。

スポーツボランティアのところで、ボランティア1名はどのようなボランティアを

されたのでしょうか。

【事務局】

スポーツボランティアの積極的活用については、県のスポーツボランティア制度を活用し、草津市民スポーツ・レクリエーション祭に大学生1名来ていただきました。

また、本市のスポーツボランティア制度については、登録者数27名ということで、この方々について実施回数4回とありますが、大相撲草津場所の事前準備や当日の対応従事、また、滋賀県障害者スポーツ大会やパラスポーツ体験会という障害者向けのイベントとして、今年度従事いただいたところです。

【会長】

今現在、まちづくり協働課で3学区にスポーツに関する取り組みが行われているが、そこに大学生がかなり入りこんでいます。そのような場合にも、このスポーツボランティアを通じて出動してもらえば、数字も増えていくと思うため、まちづくり協働課と連携しながら進めていくとよいと思います。

【事務局】

スポーツボランティア制度については、一定インセンティブを設けて、ボランティアポイント制にしており、社会体育施設の利用料や合同会社草津市スポーツ振興事業体の物品等の割引に使っていただくことで、ボランティアの機運を高めるとともに、スポーツ推進へも循環させようとしているため、他の事業へも模索しようと考えています。

【事務局】

スポーツボランティアの関係だが、少しでもボランティアの方を増やしていくということで、岡本会長の方からは、実際に学生が入っていただいている中で、本制度へ登録をいただいて地域の方へというお話もいただきました。市の方も健幸ポイント制度もごさいます。そちらの方の対象にするとかを考えていこうと思いますので、よろしくをお願いします。

【委員】

ボランティアの関係について、健・交クラブの関係で主にレイカディア大学から来ていただいている方が多いですが、3～4年前までは、毎年数名ずつ参加していただいていた方がいました。しかし、ここ2～3年数字が減っており、レイカディア大学から来ていただける方法や策を考えていただけたらと思います。健・交クラブ自体がレイカディアのOBの方が来ていただいております、健・交クラブの仕事内容をレイカディア大学で紹介いただいているということもありますが、若い方の参加が無理なら中高年の応援が必要になるので、是非とも考えていただきたいと思います。

【委員】

人口統計を見ても75歳以上の人口が増えてきています。高齢者の考え方を変えていかなければならないところもあります。

【委員】

(プールおよび野村新体育館の) 運営は、民間企業が行うのでしょうか。

【事務局】

プールについては、基本計画の中で運営の在り方についても考えていかなければならないと思っていますが、民間のノウハウについても考えていかなければならないと思います。

また、新体育館におきましては、現在市内の社会体育施設一括で指定管理させていただいておりますので、そういう流れを踏まえたうえで、今後検討してまいりたいと考えています。

【会長】

県立体育館については、P F I という施行から運営まで事業体に任せる手法を取ります。その企画案について、審査をしていくのですが、その審査の基準が非常に細かく、様々な質問項目に対して評価をします。全国の様々な体育館でP F I 方式が採用されていますが、これがいいか悪いかは、まだ言えないところがあり、他の競技単体の動きが運営者には見えないという面があります。草津市のプールあるいは体育館のところも今後どんな運営方針をとっていくかというのは事務局の悩むところがありますが、全国的なところを見て、流れに合うということは重要であることを理解しなければなりません。

【会長】

全国大会がいかに草津市で開催できるかということについては、市民の利用も1番重要なところではありますが、それ以外のところで全国からスポーツで人が集まっていたら企画がどこまで作れるかが非常に大事であり、国際大会ができるかどうかとも重要になってきます。堀井委員のサイクルフィギュアが草津拠点で世界大会ができるかどうかについても、今後皆さんで応援をしていかなければなりません。プールのところですが、現在、飛び込みが365日稼働しているプールが関西ではありません。飛び込みに関しては、全国から合宿で入るであろうと思います。例えば、県立栗東体育館においても、体操で全国から合宿に来ます。そのように考えると、飛び込みにおいては、学生だけでなく、一般の方も来られます。

【委員】

全国的に飛び込みの選手は何人いるのでしょうか。

【会長】

阪神地域は特に多いです。プールができると、さらに競技人口が増えると予想されます。飛び込みプールが全国的に少ないため、競技者はツアーを組んで合宿を行っていることから、ツーリズムというところに関わってきます。

【委員】

ツーリズムの関係で、びわイチを行っておられると思いますが、草津市としても、

様々な観光地があると思うので、びわイチに加算するようなイベントがあってもいいのではと思います。ウォーキングやマラソンにプラスして、自転車も行動範囲が広いのでツーリズムとして取り入れてほしいですし、様々な観光名所を周ることが出来ると思います。もう少し自転車を積極的にびわイチに取り入れてもらいたいです。

【事務局】

現状として、自転車競技大会の開催を行っているところではありますが、このような御意見も鑑みて、びわイチについても考えていかなければならないと思います。

【事務局】

草津川跡地公園の区間2に自転車のレンタサイクルの店舗があります。そういうこともあり、催し等も始まっているところであります。我々としても、チャレンジスポーツデーなどで、今後堀井委員の御意見もいただきながら、模索をしながら体験できるようなものができればと思います。

【会長】

ウォーキングの話や草津川跡地の話が出てきています。草津市のウォーキングマップがかなり整備されておることから、他の市町で注目されています。草津川跡地公園というスポーツ拠点から各エリアを結ぶウォーキングマップを考えていかなければならないと思います。情報発信の場を市役所以外に別の場所に設けるのがよいということで、まとめさせていただきたいと思います。

(2) 平成30年度当初予算（案）について

【事務局】

資料3に基づき、平成30年度当初予算（案）について説明

▶意見無し

5 閉会

【教育部長】

本日は長時間にわたりまして、御審議をいただきましてありがとうございます。先程、副会長からも本会議の議題にないところからも色々とお話をいただきました。やはり、情報共有をすることが非常に大切だと考えますので、我々といたしましても、皆様からの御意見をお聞きしながら、本市のスポーツ推進により一層尽力してまいりたいと思っておりますので、また御協力をお願い申しあげたいと思います。

東京オリンピックとワールドマスターズゲームズ関西2021のバッジもお配りさせていただきますので、啓発に一助いただければと思います。

御承知のとおり、本市においては、健幸都市づくりに向けましたスポーツ健康づくり、2024年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた競技力向上でございますとか、施設の方では、先程御説明させていただきましたように、ハード

面そしてソフト面でもより一層機運を高めていく必要があろうかと思えます。

また、生涯スポーツにおきましては、平成30年度には、歩こう会600回記念大会ということで、9月2日、3日に予定をさせていただいているところでございます。これはスポーツ推進委員さんの努力いただいた中で、実施ができているものということで、非常に感謝を申しあげるところでございますし、本市におきまして、健幸ポイント制度ということで、我々のPR不足もあるのですが、スポーツ保健課が所管している部分につきましても、市民の皆様にはPRさせていただいて、よりスポーツを行っていただく方が増えるというインセンティブを与えられるような形でも、しっかり啓発していきたいと考えております。我々、少しホームページのアクセス数が増えてきたということで、喜んでいるところでございますけれども、それが市民の皆様にはスポーツを親しんでもらえるきっかけになりますように今後も努力してまいりたいと思えますし、御意見もいただきたいと思えます。次年度におきましては、本日いただきました御意見を参考にしながら、ここにおいでの関係者の皆様を通してスポーツ関係団体の皆様と連携をさらに強力に強化いたしまして、推進計画に掲げました施策を具現化いたしまして、基本理念でございます“ALLくさつ”でつくる「みんながスポーツ大好きなまちくさつ」の実現に向けまして、より一層努めてまいりたいと思えますので、皆様の御支援、御協力をいただきますようお願いを申しあげまして、閉会のあいさつとさせていただきます。本日は、長時間ありがとうございました。